意思決定手法を活用した行政評価支援の研究

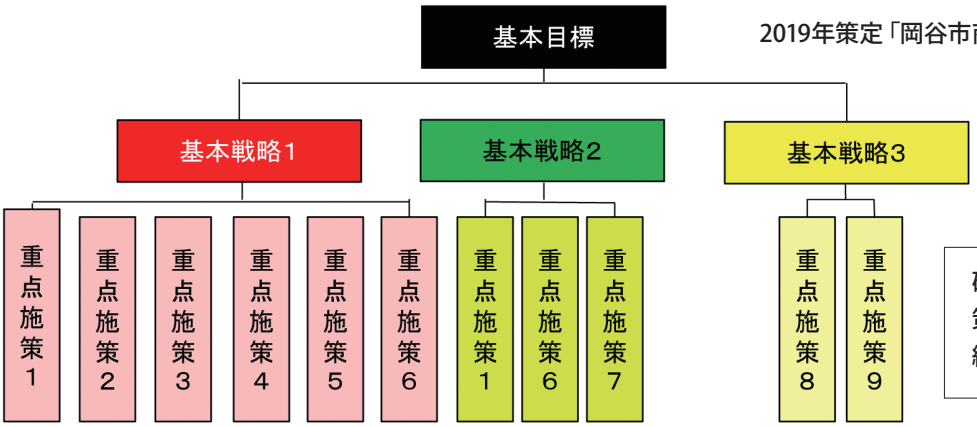
工学部 共通・マネジメント教育センター
教授　飯田　洋市

研究技術内容

【主なテーマ】
・行政評価における事業間の相対評価（有効性評価）の枠組みに関する研究
・行政評価への住民意思を反映するための手法に関する研究
・住民主体の政策立案のためのICT支援に関する研究

技術要点説明

本研究の主要な意思決定手法は、階層分析法（AHP）と呼ばれるものである。
住民目線での政策・事業のメリハリのある相対評価は、近年の緊縮財政下において不可欠である。
この評価手法は、階層構造を利用したロジックモデルであり、そこに関する主観を重視したエビデンスの創出を目指すものである。多くの市民が参加できるように、システムを開発し、スマホやタブレットで参加できる仕組みの開発を手掛けている。



2019年策定「岡谷市商業活性化計画」より

研究テーマは、住民が政策を相対評価したものを総合化する技術です。

産業への活用方向

上記手法を発展させた行政活動における業務改善技術である RPA の開発に活用できる可能性がある。

関係する大学・企業等

ピッツバーグ大学（階層分析法の拠点）

研究室概要

研究分野	社会システム工学、政治学
主研究テーマ	多基準意思決定支援、政策評価、行政評価　最適化
主要キーワード	階層分析法、データ包絡分析、政策評価法、行政評価法
研究室 HP	

特記事項

①特許取得・各種認証等取得状況（予定含む）
②シーズの熟度（基礎研究　技術開発　実証開発　実用化開発段階等）
・「岡谷商業活性化計画」における重点施策の「重要度」「優先度」の算出に活用している。
岡谷商業活性化計画については、岡谷市のホームページを参照のこと。